

所属	看護学研究科 看護学専攻 看護マネジメント学分野	修了年度	2025 年度
氏名	渡邊はる美	指導教員 (主査)	福田美和子 (糸井志津乃)

論文題目	専門・認定看護師が看護系大学生の専門職志向性に与える影響
------	------------------------------

### 本文概要

**目的：**専門・認定看護師の関わりが、看護系大学生の専門職志向性(将来の目標設定・プロフェッショナルリズム意識・役割機能への展望)に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。

**方法：**専門看護師または認定看護師が教員として2名以上在籍する看護系大学20校と、該当教員が在籍しない大学22校を抽出し、看護系大学4年生を対象に、無記名自記式質問紙調査票を用いた量的関係探索研究を実施した。調査内容は、個人背景要因(附属病院の有無、キャリアデザインやプロフェッショナルリズムの講義の有無、資格を有する教員の有無)と、専門職志向性の3側面とした。分析方法は、専門・認定看護師の在籍群と非在籍群、および専門・認定看護師を目指す志望群と非志望群により、専門職志向性の違いがあるか比較した。検定方法は、Mann-WhitneyのU検定を用い、SPSS Ver. 27で解析した。

**結果：**9大学118名(在籍校40名、非在籍校78名)から回答を得た。専門・認定看護師が在籍する大学の看護系大学生は、非在籍校の約2倍専門・認定看護師を志望していた。プロフェッショナルリズム意識では、知識・技術の修得と発展、および利他主義の一部で在籍校が有意に高かった。専門職機能への志向性では、「専門看護師・認定看護師にしかできない仕事がしたい」という回答が在籍校で統計的に有意に高かった。専門・認定看護師志望群は、知識・技術の修得と発展(8項目中6項目)、利他主義、資格の独自性、仕事仲間との連携で有意に高く、専門職機能では高度実践・倫理調整・教育・研究の領域で得点が高かった。

**考察：**専門・認定看護師が在籍する大学では、看護系大学生の専門職志向性が高く、専門職としての自己概念が“抽象的な憧れ”から“現実的な選択肢”へと変化する可能性が示唆された。本研究でも、基盤的なプロフェッショナルリズムは在籍の有無にかかわらず形成される一方、専門性の追求や継続学習、患者の最善を考える姿勢、高度な専門職機能への志向といった発展的側面は、専門・認定看護師との関わりによって強化される可能性が示された。これは、基礎的な職業的アイデンティティの上に高度な専門性志向が積み重なるという階層的発達モデルとも整合する。また、専門・認定看護師志望群は専門職概念(知識・技術の発展、利他主義、資格の独自性、連携)をより強く内在化しており、専門職アイデンティティが進展していることが示唆された。

**結論：**本研究は、専門・認定看護師との関わりが看護系大学生のキャリア志向、プロフェッショナルリズム意識、専門職機能への志向性に及ぼす影響を検討した。その結果、専門・認定看護師が在籍する大学の学生は専門・認定看護師への志望率が高く、プロフェッショナルリズムも強化されていた。また、専門・認定看護師志望群は高度実践・倫理調整・教育・研究への志向が顕著であった。これらの結果から、看護基礎教育における専門・認定看護師との接点が、学生のキャリア形成と専門職アイデンティティの発達に寄与することが示唆された。

**Key words：**専門看護師、認定看護師、専門職志向性、ロールモデル、プロフェッショナルリズム